

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0790101109		
法人名	㈱ユニマツリタイアメントコミュニティ		
事業所名	あったかいごとやのグループホームそよ風 1丁目		
所在地	福島県福島市鳥谷野字中ノ内2-2		
自己評価作成日	令和4年1月18日	評価結果市町村受理日	令和4年5月10日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/07/index.php">http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/07/index.php</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人福島県福祉サービス振興会
所在地	〒960-8253 福島県福島市泉字堀ノ内15番地の3
訪問調査日	令和4年3月31日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

1丁目 認知症の症状が重度のため、寝たきりや、車イス、食事介助が必要な利用者様が多くおられる中、日々の様子や、表情・会話などで利用者様の思いや状態を知り、ミーティングなどで話し合い、利用者様によりよいケアを提供出来るように努めています。
---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

1. 理念はわかりやすく温かみのある表現で、模造紙にあえて手書きで大きな文字で記し掲示することで、利用者や職員のみならず来訪者の目にも入りやすく、伝わりやすいように工夫されている。 2. 入浴は週2回を基本としながら回数増や希望があれば20時まで入ることができる。介護度の高い方も事業所オリジナルの「よっこいしょシート」(担架)を用いて安心・安全に浴槽に入れるよう支援している。 3. 職員間の連携と良好なコミュニケーションのもと、日々のケアの延長として一人ひとりに寄り添った看取りケアが実践されている。コロナ禍にあっても看取り期における対面での面会の機会を大切にしている。看取り後はケア内容を丁寧に振り、振り返りを深めると共に、職員のメンタルヘルス(グリーフケア)にも配慮している。
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

## 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域密着型サービスの役割を考えながら事業所独自の理念を作り上げている	開設当初の理念を全職員で見直し、意見を出し合い新たに作成し、ケアの実践につなげている。ユニットフロアに掲示する理念は模造紙にあえて手書きで大きな文字で記し、職員のみならず来訪者の目にも入りやすく、伝わりやすいように工夫している。全体ミーティングでも理念と現状のケアのあり方とを確認している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	毎年恒例の地区の盆踊りや敬老会ですが、新型コロナウイルス感染拡大予防にて、中止となり参加はできませんでした。	コロナ禍で活動が制限されるなか、敷地内でお茶会などを催し、近隣の方と挨拶を交わすなど日常の付き合いを大切にしている。自治会に加入し、広報が届けられ、地域の生活情報を共有している。3月16日の地震の際も地域住民からの声かけや家族が事業所に駆けつけてくれる等のつながりがある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症キャラバンメイトの修了書を持っている。運営会議やカフェを通して認知症への理解を話している。(今年度は3月から、コロナウイルス感染拡大予防のためカフェは中止している)		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、事業所の取組内容や具体的な改善課題がある場合にはその課題について話し合い、会議メンバーから率直な意見をもらい、それをサービス向上に活かしている	運営推進会議は新型コロナウイルス感染拡大予防のため今年度は、2月より書面会議とさせていただきます。	コロナ禍により書面開催としている。資料にて利用者や職員の現状、行事の状況などを報告している。近隣の委員には資料を持参し、直接話す機会を持っている。用紙と返信用封筒を添え、意見を頂くよう配慮している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	地域包括職員や長寿福祉課職員、在宅医療・介護連携支援センターへ困難ケースや等相談をして頂いております	担当課とは介護保険の更新手続きや生活保護利用者の状況報告のほか、事故報告は持参提出し、助言指導を頂いている。日常の諸手続きやコロナ対応等、不明な点は随時相談・確認をとり、協力関係を構築できるよう取り組んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の研修や勉強会・会議を行い常に身体拘束について話しあい防止に努めております。また、玄関の鍵は日中はかけず開放的にしております	全体ミーティングやケース検討会議などで日々のケアの振り返りやグレーゾーンの確認・意見交換を行っている。年1回「自己チェックリスト(全30項目)」で各自がケアを検証し、身体拘束をしないケアに努めている。不適切な対応・声かけ等には職員が互いに注意し合える関係を構築している。	「身体拘束適正化に関する指針」は作成されているが、メンバー構成(各職種の役割)や身体拘束等適正化に向けた検討会議の開催など、各項目の確認・見直しや追加等が望まれる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	積極的に外部研修へ参加し常に虐待とは何か…考えスタッフも日常のケアの中で虐待になるのか…等をその都度確認しケアに努めている。2ヶ月に一回虐待廃止会議を行い、虐待につながらないか確認しながら防止に努めました。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	地域包括職員に相談をしている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分な説明をし理解の上で入居頂いております		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族様へ聞き取り運営に取り入れております	感染対策に留意して面会を実施しており、職員も家族から話を伺っている。電話に加えてLINE等で頂いた意見や相談、「お客様満足度アンケート」の結果を業務運営に活かしている。利用者の意見は日々のケア場面で伺ったり、態度や仕草から推察し、ケア向上に努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	スタッフと日常の何気ない会話の中で言葉をすくいあげ運営に反映するよう努力している。また、個人面談の実施をしている。	センター長と職員の個別面談(年1～2回)に加え、管理者は日常の中で随時職員に声かけをしながら意見を吸い上げ、業務に反映させている。会議でも各職員が発言しやすい雰囲気づくりに努め、その結果良好なコミュニケーションが図られ、働きやすい職場づくりにつながっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	今年度12月より、事業者が変更になりましたが、働きやすいように気配りして下さっております。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	私たちの意見を聞いてくださっており、そのような場を設けるよう推薦して下さっております		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	新型コロナウイルス感染拡大予防のため、同業者との交流は中々できない状況でした。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の実態調査にて想いをくみ取っております。また、ご本人様から聞くことが困難な場合はご家族様からの意見を参考にしております		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前の実態調査にて想いをくみ取り、また、改めて入所した初日にまた想いを聞いております		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所前の実態調査にて想いをくみ取り、また、改めて入所した初日にまた想いを聞きより良い生活にするには…と…一番に考え努めております		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ここでの生活の主はご利用者様であることをスタッフも再認識し自立支援と自己決定が出来る様な支援の取り組みをしております		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナ化の中でもご家族様との関係を大切に気をつけながら、病院受診など協力して頂き関係を築いていただいております		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	近所付き合いが継続出来るよう面会時にはこちらからも「いつでも良いのでまたお越しくささい」とお伝えしております。また、ホーム内での関係も途切れないよう関わりを持てる支援に努めております	コロナ禍で外出が制限されるなか、近くのスーパーに出かけたり、受診の帰りに馴染みの場所に立ち寄るなどの機会を大切にしている。感染対策に留意した面会の継続、ハガキや電話でのやり取りなど関係が途切れないよう支援している。行事をとおして近隣保育園との交流も継続している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様同士で何かされる際には見守るようにしております。(あれとってや貸して等の簡単なこと)関係の良くない利用者様同士の関わりあいには距離感にも気をつけております		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後も年賀状のやり取りやご家族様が来訪して下さったりと関係性を大事にしております		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の会話の様子からも思いや希望をくみ取るように努めています。月1回担当者会議を開き把握に努めています。	日常場面での会話や家族や担当ケアマネジャーから得た情報のほか、自ら訴えることが難しい利用者の場合、表情や仕草から意向や希望を推察するように努めている。得た情報や学びなどはユニットミーティングで共有し、利用者本位の支援につながるよう心がけている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人から昔の話しを聞いたり、ご家族様とお話しする機会をつくりその方の人生全体を捉えて関わられるようにしております		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者様には担当スタッフがついており、担当スタッフ中心に日ごろの把握に努めその都度ミーティングにて見直しを行っております		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	体調の変化や日々の関わりの中で利用者様やご家族様の意向を把握し職員間でケース検討会議を行い介護計画書を作成しております	ケアプランは長期目標6ヶ月、短期目標3ヶ月を基本とし、利用者の状況に応じて随時、見直し・検討を行っている。毎月のケース検討会議で「モニタリング総括表」でプランの進捗状況を共有し、現状に即したプラン見直しに努めている。記録はICTで管理され、ケア提供内容や健康状態が詳細に記されている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアプランに沿った支援、その結果を記録できております。気づき・工夫等も記録しリーダーが吸い上げ統一した対応が出来るようにしています		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	状況が変わった時は、最善のケアが出来るようにアイデアを出し合い、試行錯誤しながら支援に取り組んでいる。そのための勉強会も行っています		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣の協力を得ており、ご利用様が帰宅願望にて外出や徘徊しても温かく見守ってくださっております		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	各ご利用様には在宅から続いている主治医がおり継続出来るようサポートしております。また、受診が困難になった場合にはご家族様と相談し病院を選んで頂いております	入居時に、事業所の診療体制を説明し、かかりつけ医を選択してもらっている。現在の利用者全員が、協力医を選択している。通院可能な利用者には職員が同伴し家族と病院で待ち合わせて外来受診としている。また、通院困難な利用者は往診してもらっている。往診の結果は電話で家族へ報告している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に1度の訪問看護に向け担当者がノートに記入しその都度処置の指示やご指導をうけ日々のケアに活かせてます		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院の相談員とこまめに連絡をとり早期退院に向け会議に参加したりと良好な関係を築いております		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合の対応指針やホーム内の看取りについて入居時に説明しホームの指針を理解した上で入居して頂いております。また、状態変化に伴い改めて再度看取りの指針を理解していただき同意書をお願いし地域の医療関係者様・スタッフ・ご家族様が一体となり取り組んでおります	入居時に、重度化・急性期に関する指針に基づき、事業所の対応を説明し意向を書面で確認している。重度化した場合、主治医の説明を受け、事業所と家族を含めて話し合い、家族の希望に従い看取りを行っている。看取りでは訪問看護師と連携を図り終末期のケアに努めている。年2回研修を行い、看取り後の振り返りも行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	入居者様ごとに起こりうる急変やリスクについて検討し対応の仕方を勉強会をしスタッフで共有しています		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	日々掃除の時火災防止の為危険箇所がないかチェックをしている。年に2回の総合避難訓練を近隣の方も交えて行っております。また、運営会議にて災害(水害も含む)時の対応の確認もしております	総合消防訓練を年2回実施している。うち1回は消防署の立ち会いを依頼しているが、今年は緊急出動のため実現しなかった。避難訓練では、建物等のオーナーや町内会長が参加している。またコロナ禍で中断しているが運営推進会議の委員も毎年1回は避難訓練に参加し、避難後の見守り等の役割を果たしてもらっている。	避難訓練は2回とも夜間の火災想定訓練であるためハザードマップを確認のうえ予想される災害を含めた様々な想定訓練や防災機器操作の訓練、通報訓練など、より多くの訓練の実施が望まれる。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者様に合わせた対応、個別ケアに努めています、申し送りや日々の会話の中でも気をつけております	トイレ誘導では、周りに聞こえないよう小声で伝えている。オムツ交換時はドアを閉めるなど利用者の羞恥心に配慮したケアに努めている。また、呼び方は入居時に苗字か名前にするかを利用者に確認して、「さん付け」で統一している。個人情報保護の研修を行い、冊子等は職員以外に立ち入らない部屋で保管している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	答えやすい質問に心がけご本人様の意思を引き出せるようにしております。また、飲み物やおやつ、衣類の自己決定を促しております		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日の気分や体調に応じて無理のない生活が送れるよう配慮しております。時間に関係なく本人の希望で居室で休んだりして頂いております。朝も目が覚めた方から起きて頂いております		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	洋服は選んで頂き、整容も促しています。爪切りや髭剃りのお手伝いをし身だしなみに気をつけております		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事に関連した作業を利用者とともに職員が行い、一緒に食事を味わいながら利用者にとって食事が楽しいものになるような支援を行っている	皆で楽しく御食事を共にしております。また、楽しくお食事をとれるよう機の配置に工夫しております。(コロナウイルス感染拡大予防のため間隔をあけております)	3~4年前から、塩分や栄養面を考慮して配食会社から配送されるチルド食を3食とも利用している。ごはんのみそ汁は事業所で作って提供している。利用者にはみそ汁の具材を切ってもらったり、盛り付けに参加してもらっている。また、畑で栽培した野菜はみそ汁の具材に使っている。	利用者から食事に関する希望を聞いているものの反映する機会が行事や誕生日に限定されている。家庭と同様に利用者の希望に従い、音や匂いなど五感を刺激しながら手作りの食事を提供する機会をより多く設ける取り組みが望まれる。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者様やそれぞれの好みや状態に応じて食事や飲み物を提供しております		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯科医師の指示のもと、朝、夕に一人ひとりに応じた口腔ケアを行い出来ることは本人に行って頂いております。また、食前の口腔体操も楽しく行っております。毎月8日を歯の日とし、口腔チェック歯ブラシ交換に努めております。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを把握し、出来るだけトイレでの排泄ができるよう支援しています。	排泄と水分摂取量をiPadを使用して記録し利用者ごとの排泄パターンを把握して、定時でトイレ誘導を行い、基本的にトイレで排泄できるように支援している。オリーブオイルや牛乳、ヤクルトの摂取を行い、薬に頼らず自然排便ができるようにして排泄自立を図っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	体操を取り入れたり飲食物やマッサージ等で工夫しておりますが、薬での調節もしております		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	希望がある入居者様には希望に添えるようにしております。入浴拒否の方や重度認知症の方は気分、体調の良い日に入浴して頂いております	週2回の入浴を目安にしているが、利用者の希望に応じてより多く入浴を支援している。現在2名の利用者の希望により、夜7～8時の入浴にも対応している。また、職員が作成した「よっこいしょシート」(担架)を使用して介護度の高い利用者にも浴槽での入浴を支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の希望や体調に応じて休んで頂いております		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方された薬は説明書を読み理解し分からないことは看護師や薬剤師へ聞き把握に努めてます。また、変化については経過を記録し往診時に報告しております		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの出来ること、楽しめることを探り支援しております。月一回のご当地メニューの提供や、外食支援にて気分転換を図っております。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日には、近くに散歩に出かけたり、庭のお花を見たり。今年度は新型コロナウイルス感染拡大予防のため、ホームでホットケーキやたこ焼きパーティーをして楽しんで頂きました。	コロナ禍のため外出は控えているが、できる限り敷地内の散歩、庭や畑での花や野菜栽培など外気に触れる機会を設けている。また、外来受診の帰路に感染防止に努めながらコンビニでの買い物などを支援している。さらに、天気のよい日には駐車場や庭などに椅子やテーブルを出し、お茶飲みなどを行い楽しんでもらっている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	トラブル等の心配のないご利用者様がご希望の場合、家族様と連携をとり所持しておりました。また、ご家族様が預けて行った際は必ずスタッフへいくらをどこに預けたかを声かけて頂くようにしております		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	いつでも電話がかけられるように事務所は開放しております。また、子機が各ユニットにあり、外線はついてませんが、いつでもご家族様からかかってきたお電話繋いで会話を楽しまれております		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	不快や混乱を招く刺激はありません。花や壁画で季節感を出し臭いへの配慮や温度調節も行っております	リビングの壁面には、ぬり絵や習字など利用者の作品を掲示している。椅子やテーブルの他にソファを置き、好みの場所で過ごせるよう配慮している。また、職員が温度湿度を利用者に合わせて調整を行い、空気清浄機を使用して快適に過ごせるように努めている。ペット型ロボットが1台あり利用者とは接することで癒しになっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファを置き、一人でも足を伸ばしてくつろいだり入居者様同士座ってお話できるようにしております。ちょっとしたテーブルとお茶セットを置き、自由に飲んで頂けるようにしております。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室、或いは泊まりの部屋は、プライバシーを大切に本人や家族と相談しながら、居心地よく、安心して過ごせる環境整備の配慮がされている(グループホームの場合)利用者一人ひとりの居室について、馴染みの物を活かしてその人らしく暮らせる部屋となるよう配慮されている	入居時準備して頂いております	居室の入口に木製の表札や写真が掲示されている。居室にはベッド、エアコン、洗面台、クローゼットが備え付けられ、利用者は仏壇、テレビ、衣装ケースなどを持ち込み、壁に家族の写真などを飾って、その人らしい部屋づくりを行っている。毎日、職員が清掃や温度湿度の管理を行い、快適に過ごせるよう支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	新しく入った入居者様がなれるまでトイレの張り紙(トイレ)を貼ったり工夫をしております		